

平成 2 9 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢をかたちに！ (*Scale up your Dream, and Build up your Future.*)

生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持ってその実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成する学校をめざします。

【生徒に育みたい力】

- 1 高校三年間の様々な体験的学習を通し、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来の夢を見定め実現していく力。
- 2 地域社会の発展に寄与するための高い志を持ち、自らを律し社会人として自立する力。[自立]
- 3 異文化や異なる価値観を理解し、身の周りから世界に至るまでの様々な人々と共生できる力。[共生]
- 4 ボランティア活動等の実践を通し、基本的人権を尊重し社会に奉仕貢献できる力。[友愛]

* 日根野高等学校 校訓「自立・共生・友愛」

2 中期的目標

1. 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む

(1) わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。

- ア、習熟度別授業（チャレンジ・スタンダード・ベーシック）と演習科目を充実させ、基礎学力及び受験学力の向上に資する授業を展開するとともに、補習・講習の講座充実を図る。
- イ、専門コースに合わせた体験授業（看護実習・保育実習）を取り入れるなど、泉佐野市や地元大学等と連携し、出前授業など外部人材の活用を推進する。
- ウ、主体的・対話的で深い学びを育むため、ICT等を活用しコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を開発する授業を研究・推進する。
- エ、語学教育、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で体験的な学習機会を通じ、異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。
- オ、学校教育自己診断アンケートや授業アンケートの項目に基づき、学校経営上の数値目標を設定する。

※専門コース・科目選択に関する生徒満足度。(H28:81% H29:85% H31:90%)

※ICTを活用した教材や授業への生徒満足度。(H28:94.8% H29:95% H31:96%)

※プレゼンテーション能力が十分に身についたとする生徒の肯定的回答率。(H28:66.2% H29:70% H31:90%)

※国公立大学・難関私立大学（関関同立・近・関西外大）進学者数。(H28:26名 H29:40名 H31:50名)

※児童保育系進学者数、看護医療系進学者数。(H28:児童保育系29名 看護医療系67名、H29:40名 75名、H31:50名 80名)

世界を相手に飛翔するグローバル人材、国際感覚を身に付けて地元地域社会に貢献するグローバル人材をバランスよく輩出する進学校をめざす。

※生徒の進路希望実現満足度。(H28:70.4% H29:75% H31:80%)

(2) 特色ある三つの専門コース(アドバンスト人文社会・子どもみらい・看護メディカル)を持つ普通科専門コース設置校として、新しい公立高校のカタチを探求する。

- ア、専門コース演習科目の内容充実を図る等より生徒のニーズに適合したカリキュラム編成を行う。
- イ、コースや科目選択時の生徒の満足度をあげるとともに、専門コースを選択する生徒の比率を40～50%を目途にバランス良くガイダンスする。
- ウ、もっと入りたい学校へ。本校のアドミッションポリシーを理解した入試志願者数の安定をめざす。
- ※ガイダンスに関する満足度。(H28:86.3% 以降、対前年増を継続させる。)
- ※入試志願者倍率。(H28:1.07倍 H29:1.1倍超 H31:1.1倍超)

(3) 進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。

- ア、志学・キャリア教育・人権教育・進路指導を系統的に結合した「ひねのプログラム」を活用し、生徒の学習意欲の向上を図る。
- イ、分野別進路説明会を開催するとともに「進路適性検査」などを活用し、進路選択のミスマッチを回避、自己の進路実現を図る。
- ウ、社会保険労務士や司法書士、民間経営者などの外部講師を招聘し、社会人としての心得など、身近な問題に触れ意識付けを図る。
- ※進路選択やキャリア教育に関する満足度。(H28:85.2% H29:88% H31:90%)

2. 社会道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む

(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。

- ア、「いじめ防止基本方針」に従い、全校でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。
- イ、基本的生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。
- ※命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった。(H28:76.9% H29:80% H31:85%)
- ※生徒一人当たり平均遅刻回数。(H28:4.7回 H29:4回 H31:3回)

(2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取組みを推進する。

- ア、スマホの急激な普及によって起こっているインターネット上の諸問題に対し、情報と社会の授業や各学年のHR等で学習し対応に取り組む。
- イ、保護者への啓蒙活動を研修等により継続するとともに、保護者と教職員とがさらに連携を深め、生徒一人ひとりを大切にしたい人権教育の充実を図る。
- ※保護者向け教育相談に関する満足度。(H28:84.5% H29:87% H31:90%)

(3) 部活動や各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図る。

- ア、生徒会やボランティア部を中心にした生徒主体による地域での社会貢献活動の取組みを推進する。
- イ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解する。
- ※部活動加入率。(H28:68% H29:70% H31:80%)

(4) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れるとともに、HP等で学校の特色ある取組みを紹介する。

- ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動」に対する満足度について、さらなる向上をめざす。
- ※教育活動に関する満足度。(H28:84.6% H29:87% H31:90%)
- ※教育情報についての提供努力満足度。(H28:83.9% H29:87% H31:90%)

3. 生徒理解を促進し相談体制を充実させる

(1) 全教職員が、障がいのある生徒への理解を深めつつ自立を支援する合理的配慮やケアを行い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。

- ア、「生徒支援カード」をもとに、支援を要する生徒について個別の支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容の検討を行う。

(2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と水平連携を行う。

- ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談についても相談体制を構築し、生徒に周知徹底する。

※生徒向け教育相談に関する満足度。(H28:62.4% H29:65% H31:70%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【中期的目標と実績 1】 ()内数字は H29 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース、科目選択に関する満足度 85% (83.2%) 対前年 2.2% 増 ・ICT活用授業を行った教員への満足度 95% (94.7%) 対前年横ばい ・プレゼンテーション能力向上満足度 70% (57.6%) 対前年 8.6% 減 ・進路希望実現満足度 75% (65.9%) 対前年 4.5% 減 ・ガイダンスに関する満足度 87% (83.1%) 対前年 3.2% 減 ・進路選択やキャリア教育に関する満足度 88% (86.5%) 対前年 1.3% 増 <p>【中期的目標と実績 2】 ()内数字は H29 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さや社会のルールを学ぶ機会に関する満足度 80% (80.0%) . . 対前年 3.1% 増 ・教育相談に関する保護者満足度 87% (83.9%) 対前年 0.6% 減 ・教育活動に関する保護者満足度 87% (77.4%) 対前年 7.2% 減 ・教育情報の提供努力への満足度 87% (83.3%) 対前年 0.6% 減 <p>【中期的目標と実績 3】 ()内数字は H29 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談に関する生徒満足度 65% (68.7%) 対前年 6.3% 増/達成 <p>*前年度に比べやや低い数字が出ているが、前年度の数字は過去 5 年間でも特段に高い結果となっており、中期での推移で見ると十分に高位で安定していると考え。前年度の高い数字は近年の学校努力の成果ではあるが、調査のタイミングが「30 周年記念式典」の数週間後、ということもあり（大変、記憶に残る感動的な式典であったと生徒保護者からの感想を得ている。）全体として、やや心理的な影響もあったと思われる。</p>	<p>【第 1 回 6/23 (金)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活はいろいろなことが学べるので（バイトでの目先のお金に惑わされることなく）継続して注力してほしい。 ・障がいのある生徒に対するサポート体制（オープンスクールや入試から卒業まで）を築いてほしい。 ・地域やエリアをあげて人権教育について取り組むべきだが、学校でも更に活発化してほしい。 ・校内だけでなく周辺地域も含め環境維持や浄化活動に取り組んでほしい。 ・早い時期に縛りをかける専門コース制よりも、もっと選択性の高いカリキュラムに変え、多様な選択肢を与えるシステムに変えたほうが、生徒たちの進路実現につながると考える。 <p>【第 2 回 10/27 (金)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の地域への公開は検討できないか。全面公開は難しいにしても、受験を考えている中学生への公開はできるのではないのか。検討してほしい。 ・最近、直接メール配信による対応が主体になったため、学校HPの活用が消極的になっている。HPで年間計画表や具体的な生徒の活動報告などをもっと発信公開してはどうか。 <p>【第 3 回 1/26 (金)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門コース制がかえって生徒たちのカリキュラム選択を難しくし、結果的に窮屈な学校生活にならないよう柔軟な発想で教務活動に取り組んでいただきたい。 ・進路意識の高い生徒の数が増えてきているので、その芽を摘まないよう、より高い目標を掲げた進路指導（国公立大や難関私大等）をしていただきたい。 ・頭髪指導等、難しい生徒指導状況にある。基本的には緩むことなく指導してほしいが、生徒によっていろいろなケースがあるので、従来のルールに縛られることなく（決めつけることなく）柔軟に指導していただきたい。 ・学校教育自己診断の分析は良くできているが、ビジュアル的に円グラフ等を交えていただいた方が更に理解しやすくなるように思うのでご検討いただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む	(1)わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。	<p>(1)ア、英・数・国の教科において、チャレンジ・スタンダード・ベーシック3段階の習熟度別授業を設定し、また補習・講習講座を充実させていくことで、苦手科目の克服、得意科目の伸長を図る。</p> <p>自習・講習・模試検定の「場」を拡大し、ひねのプログラム運用により生徒の自主学習の状況確認を継続する。</p> <p>イ、実践的な専門演習科目を確立し、地域連携強化のもと、外部人材のプロ精神と技術を体験的に学習する。</p> <p>ウ、ICT教材や設備を活用し、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の開発授業を研究・推進する。反転学習やペアワーク等の導入を推進し、生徒の発話機会を拡大させ、コミュニケーション能力の向上に繋ぐ。</p> <p>エ、語学、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で体験的な学習機会を通じ異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。</p> <p>オ、学校教育自己診断アンケートや授業アンケートの項目に基づき、学校経営上の数値目標を設定する。</p>	<p>(1)ア、「コース科目選択に関する満足度」85%。(H28 81%) 家庭学習時間：2時間(H28 66分)</p> <p>イ、体験的学習延べ80時間超/全校を堅持する。(H28:83時間)</p> <p>ウ、「ICT活用授業を行った教員への満足度」95%(H28 94.8%)。生徒の「プレゼンテーション能力向上満足度」70%。(H28 66.2%)</p> <p>エ、校内活動を底上げし、ピブリオバトル強豪校となり大阪大会優勝をめざす。海外の教育連携校や地元国際交流機関との連携を継続・強化する。</p> <p>オ、国公立大学・難関私立大学(関関同立+近+関西外)の進学者数40名。児童保育系進学者数40名。看護医療系進学者数75名。進路希望実現満足度75%(H28 70.4%) センター受験者数20名(H28 4名)</p>	<p>(1)ア、満足度は83.2%で微減。家庭学習時間は休日の学習が大きく伸び92分となった。学習習慣が付きつつあるので今後の学力向上が期待できる。(△)</p> <p>イ、88時間。泉佐野市との教育連携が定着。(◎)</p> <p>ウ、ICT活用授業・発話型授業が全教員に定着し、ICT満足度は高位維持、プレゼンテーション満足度は57.6%で8.6%ダウン。頻度は高めたが生徒の達成感に至っていない(△)</p> <p>エ、学校代表は大阪大会決勝に残れなかったが、ピブリオバトルの校内予選は1～2年生全員参加。年一回の模擬選挙授業が定着した。オーストラリア語学研修、タイからの語学研修生受け入れを行い、年間行事化できている。(○)</p> <p>オ、国公立難関私大27名(△) 保育系21名(△) 看護医療系45名(△) センター受験者14名(△)対前年10名増 学習習慣の改善が結果に繋がりがつつある。看護医療系志望者数が少なく、結果に結び付けられなかった。</p>
	(2)特色ある三つの専門コースを持つ普通科専門コース設置高校として、新しい公立高校のカタチを探索する。	<p>(2)ア、専門コース演習科目の内容充実を図る等、生徒のニーズに適合したカリキュラム編成を行うとともに、それを的確にガイダンスし運用する管理者を設ける。</p> <p>イ、コース選択時の生徒満足度を上げるとともに、特色ある専門コース選択をする生徒へのガイダンスをバランス良く行う。</p> <p>ウ、もっと入りたい学校への魅力づくり。</p>	<p>(2)ア、「ガイダンスに関する満足度」87%(H28 86.3%)</p> <p>イ、専門コース選択比率目標40% アドバンスト人文社会16%(H28 16%) 子どもみらい16%(H28 10%) 看護メディカル16%(H28 14%)</p> <p>ウ、入試志願倍率1.1倍超(H28 1.07)</p>	<p>(2)ア、「ガイダンスに関する満足度」83.1%。(△)満足度は一定、高止まりしている。</p> <p>イ、専門コースの選択者が40%(アドバンス15%、看護16%、子ども9%)全体としては計画通り(○)</p> <p>ウ、倍率1.19倍(○) APに合う生徒(進路意識の高い)の募集をすすめており、順調である。</p>
	(3)進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。	<p>(3)ア、「ひねのプログラム」を活用し、生徒の学習意欲の向上を図る。</p> <p>イ+ウ、分野別進路説明会、社会保険労務士講座、司法書士講座等、外部人材を活用し、進路実現に繋げる。</p>	<p>(3)「進路選択やキャリア教育に関する満足度」88%(H28 85.2%)</p> <p>「キャリアガイダンスセンター来室者数の拡大」12名/稼働日。(H28 11名) 泉佐野ロータークラブとの連携活動継続</p>	<p>(3)進路選択やキャリア教育満足度86.5%。ひねのプログラムが順調に稼働しており、外部から多くの講師(看護師、保育士、社労士、司法書士、税理士、銀行員、民間経営者等)を向え、生徒のキャリア形成へと繋いだ。(○) 来室者数13名/稼働日。教員の常駐化が進み、生徒の満足度に反映されてきた。(○)</p>

府立日根野高等学校

<p>2 社会、道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む</p>	<p>(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。</p> <p>(2) 急速に普及するスマートフォンに係るネットと人権侵害理解についての取り組みを推進する。</p> <p>(3) 部活動や各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図る。</p> <p>(4) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取りるとともに、HP等で学校の特色ある取り組みを紹介する。</p>	<p>(1)ア、「いじめ防止基本方針」に従い「いじめ防止対策委員会」を立ち上げ、年間計画に沿って実施する。</p> <p>イ、基本的な生活習慣の確立、挨拶励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成。</p> <p>(2)ア、インターネット上の諸問題(ツイッター、ライン等)の事例を多く取り上げ、現実性をもたせながら指導する。情報と社会授業や各学年HR等で、その問題に対する取り組みを継続する。</p> <p>イ、保護者への啓蒙活動も含め、家庭・学校間の連携を深めた人権教育を展開する。</p> <p>(3)ア、生徒会やボランティア部を中心とした生徒主体による地域での社会貢献活動の取組みを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OSAKA あいさつ運動の実践 ・RUN 伴プロジェクト参加 <p>イ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信発表の場を多く設けることで、社会貢献の意義や尊さを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏学部 (小中大での訪問演奏・合同演奏、商業施設でのタイアップ演奏等) ・美術部 (商業施設や文化施設での展示発表) ・茶道部 (商業施設での国際交流連携) ・女子バレー部 (地域33中学校を対象とする日根野杯開催によるバレー・体育振興) <p>(4)ア、保護者向け学校教育自己診断において、教育活動に対する満足度を更に向上させる。</p>	<p>(1)ア、生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」80%。(H28 76.9%)</p> <p>イ、平均遅刻回数4回(H28 4.7回)</p> <p>(2)ア、様々なマイノリティへの理解を深める教育をし、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」とする満足度を80%。(H28 76.9%)</p> <p>イ、保護者向け「教育相談に関する満足度」87%(H28 84.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け人権学習会の開催1回。(H28 1回) <p>(3)部活動加入率 70%(H28 68%)</p> <p>(4)ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動に関する満足度」87%(H28 84.6%) 「教育情報についての提供努力満足度」87%(H28 83.9%) 学校情報の一斉メール配信システムの有効利用。学校自己診断・授業アンケートの分析方法の再検討。</p>	<p>(1)ア、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会満足度」80.0%。ひねのプログラムや人権学習の成果と考えられる。(○)</p> <p>イ、平均遅刻回数4.46回。微減にとどまり抜本的な対策を講じる必要がある。(△)</p> <p>(2)ア、情報の時間やHRを使って、SNSの使い方の学習を軸に展開した。(◎)</p> <p>イ、教育相談に関する満足度83.9%。(△) 保護者向け人権学習会の開催1回。(○)</p> <p>(3)部活動加入率 75.7% (◎) 予定を上回る加入率の伸びである。</p> <p>(4)ア、教育活動に関する保護者満足度77.4%。前年比7%ダウンしている。全般的に進路意識の高い保護者ニーズが顕著であり、授業力強化への要望が強くなっている。早急に対応する必要がある。さらに教育情報についての提供努力満足度83.3%。メールマガジンやメールによる学校連絡の情報密度と頻度を格段に上げたがそれでも満足度に反映されていない。(△) 今年度より質問内容・問い方を大幅に変更した。</p>
<p>3 生徒理解を促進し相談体制を充実させる</p>	<p>(1) 全教職員が、障がいのある生徒への理解を深めつつ、自立を支援する合理的配慮やケアを行い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。</p> <p>(2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と水平連携を行う。</p>	<p>(1)ア、生徒支援カードをもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容を検討する。</p> <p>(2)ア、体罰・ハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談体制を構築し、生徒に周知徹底する。</p>	<p>(1) (2) 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談に関する満足度」65%(H28 62.4%)</p>	<p>(1) (2) 教育相談に関する生徒満足度68.7%。達成。情報共有の高速化を進めつつ、教職員全員に校内研修を行うなど、カウンセリングマインドの向上とコンプライアンス意識の徹底に努めた。(○)</p>